

2023年1月11日

各位

東京都千代田区外神田 1-18-13  
株式会社エスプール  
(コード番号：2471)  
問い合わせ先：取締役社長室担当 荒井 直  
TEL：03-6859-5599（代表）

## 当社に関する一部報道について

2023年1月9日、共同通信社及び中日新聞など地方紙が掲載した記事において、当社の子会社であるエスプールプラスが提供する障がい者の雇用を支援する農園サービスに関し否定的な報道がございました。

同社が提供するサービスは、障がい者雇用を希望する企業に対し、障がい者の就労に適した農園を貸し出すサービスとなっています。農園は障がい者の安心安全に配慮した仕様となっており、農園に勤務する3,000名を超える障がい者の皆様の定着率は92%を超えています。農園で栽培された野菜は、従業員の福利厚生の一環として配布されるほか、社員食堂での利用、子ども食堂への寄付など様々な形で有効に活用されています。

そのような中、記事では、「大半の企業の本業は農業とは無関係で、障害者を雇うために農作物の栽培を開始。作物は社員に無料で配布するケースが多い。違法ではないが、障害者の法定雇用率を形式上満たすため、本当の意味での雇用や労働とは言えない」、「雇用を事実上代行するビジネス事業者にお金を払い、雇用率を買うようなもの」といった当社サービスを一方的に否定する立場からの見解が示されていました。

当社のサービスに対し賛否双方のご意見があるのは認識しております。しかしながら、今回の報道に関しては、当該報道機関の一方的な意見に偏ったものであり、農園に勤務する障がい者の皆様やそのご家族、利用企業の皆様、農園を誘致して頂いた行政の皆様など、当事者の声がほとんど反映されておらず、当社事業の実態から大きく乖離した内容となっています。当社としましては、声の大小に左右されることなく、様々な意見に耳を傾けた上で議論を深め、障がい者雇用のあるべき姿が形成されることを望みます。

相対的に就職が難しいと言われる知的障がい者や精神障がい者の皆様の職業として、農業は非常に親和性が高く、エスプールプラスでは障がい者の皆様がやりがいを持って働くことを目指した農園を運営しております。一方で、障がい者雇用の実現の方法を模索する企業も多く、そのような企業の皆様に対し農園を貸し出し、その企業の一組織として主体的に障がい者雇用に取り組んでいただくことをサポートすることが同社の事業となります。農園を利用する企業においては、就職した障がい者の方々を自社の従業員として迎え入れ、適切に雇用管理するとともに、後述するように自社の事業活動の一環として組み入れて雇用主としての債務を果たしています。したがって、記事における当社サービスが障がい者雇用を「事実上代行」しているといった指摘については、実態から乖離した不適切な表現であると考えています。

また、栽培された野菜の活用は多岐に渡っており、社員食堂で活用されることや一部小売業のお客様では実際に販売も行われています。記事では、野菜が外部に販売されないことを重視しているようですが、社内で消費される野菜に対する従業員の満足度は高く、また、子ども食堂への寄付など社会貢献にも大いに役立っており、健康経営の強化やD&I（ダイバーシティ&インクルージョン）の推進、ESG経営の強化など、お客様企業

の経営方針に沿った形で農園の利用が行われております。このように企業価値の向上に間接的に携わる部門に所属する従業員について、「本当の意味での雇用や労働とは言えない」という評価をすることは適切ではないと考えます。また、「ビジネス事業者にお金を払い、雇用率を買うようなもの」という指摘についても、真摯に障がい者雇用に取り組む企業に対し、一方的な見解を押し付けるものであり、不当な評価であると考えております。

当社は、就職を希望する障がい者の皆様と障がい者雇用に前向きな企業の橋渡し役を担うことは、社会的に大変意義があるものであり、従業員一同誇りをもってこの事業に取り組んでおります。就職を希望する全ての障がい者の皆様が生き生きと働くことができる世の中を創ることを目標に、法令順守の元、この事業を発展させていきたいと考えております。同時に、障がい者雇用に求められる障がい者の皆様の「雇用の安定」と「能力を正當に評価する仕組み」、「能力の開発及び向上」を、雇用主がより一層推進できるよう支援してまいります。また、当社の サービスがより多くの皆様から応援していただけるよう、関係機関とも密に連携を取りながら努力していく所存です。

農園に関わる関係者の皆様、株主の皆様、投資家の皆様におきましては、今回の報道にて多大な心配をお掛けしておりますが、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

以 上